

自己評価結果公表シート（令和7年度）

1. 学校の教育目標

「なんでもごいっしょ」 「いっしょうけんめい」 「すなおでよいこ」

- ★ 心の育つ大切な時期に聖書を通して「神の愛」を知り、思いやりの心・感謝の心・奉仕の心を培う
- ★ よく考えて工夫し、自分の個性をすすんで表現し、のびのびと行動できる子どもに育つ
- ★ 集団生活の中で、自分の存在・役割に気付き、責任をもってすすんで働く子どもに育つ
- ★ 何でも途中で放り投げたり挫けたりせず、少しずつ粘り強くやり抜いていく力を育てる

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 1.自分たちが調理する料理の野菜を育て、それを食育に繋げていく
- 2.縦割り保育の充実を図り、年長児が責任をもって年少への対応を主体的に行いお手本となって行動する。年少児は年長児を信頼し、関係を深めて安心して生活する。
- 3.特別支援を必要としている園児が増えている中で、それぞれが異なる発達や異なる援助が必要であることから、専門家から直接指導を受け、支援が必要な子どもたちが生活しやすい環境を保障しながら育ちを援助していく
- 4.科学あそびをきっかけに生活の中にある不思議を体験する
- 5.英会話を充実させ、一定の時だけでなく、毎日朝の会で日本語で行っていることを英語でも行い、毎日の積み重ねで自然に英会話に繋げていけるようにする。
- 6.とうきょうすくわくプログラム・自然 ⇒ 電子黒板を使つての探究活動

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 食育	A	例年、畑で野菜を育てているが、今年度は自分たちで調理するカレーや豚汁の材料を育てることを計画し、具材になる野菜を考え、ジャガイモ、人参、大根、里芋を育てることに決め準備を始めた。種で育つ野菜と種芋から育てる野菜の違いを学び、育つ過程を観察しながら水や肥料やり雑草抜きなどを行った。特に里芋は初めての試みで、収穫時、土を掘りながら里芋がどのように出来ているのかを観察しておどろきの声を上げていた。収穫した野菜は、それぞれカレーライスパーティや豚汁用の具材として調理し、全園児で食した。付け合わせで育てていたキュウリやブロッコ

		<p>りーは、収穫直後の味を楽しみ、新鮮な野菜の美味しさを味わい、家では口にしなかった野菜が食べられた子どもも多かった。</p>
(2) 縦割り保育	A	<p>年少児との関りの難しさは、年長児たちが年度当初四苦八苦するところだが、個の関わりの中で、年長児は諦めることなく、ひたすら献身的に2歳児3歳児に尽くしている。毎日、根気強くかかわりながら、しだいに年少児たちが年長児を慕い、手を引いたり遊び相手をして貰うことを喜び、年長児は尽くしながら慕われる喜びを味わっている。その年長児の姿を年中児が見習い、縦割りの関係がどんどん深まり、信頼関係が出来上がっていく。それらは、教師との関係よりも深いと感じることもある。子供社会の中で、縦割りの関係がしっかりと築かれていることはすばらしい。</p>
(3) 特別支援教育	A	<p>月に一度、臨床心理士による巡回指導があり、子どもたちを観察してもらい、行動や体の特性、友だちとの関り等を観察してもらい、その都度どのような対応をしていくことがベストであるかを教員に助言をいただき、保育の中で対応をしている。</p>
(4) 科学あそび体験	A	<p>身近にある物がどのような素材によって作られているかを講師の先生の指導によって実験体験を行った。クエン酸と重曹を使って冷たくなる実験、塩化カルシウムを使って温かくなる実験、カイロの材料を使って、もっと温かくなる実験、紙おむつの水の吸収の量を見る実験、コーヒーフィルターを使って、水性ペンの色を作っているインクの成分を分ける実験等、毎回わくわくと不思議を体験して目をキラキラ輝かせた。</p>
(5) 英会話	A	<p>正課の教室としては、月1回ネイティブ講師より英会話を楽しんでいるが、自然な英会話に繋げていくには時間数が少ないことから、毎朝、朝の会に繋げて5分間全クラス一斉に挨拶、暦、天気、自己紹介、その日の活動などについて英語遊びを行った。あまり興味を示さなかった園児も毎朝の積み重ねによって、英語に親しみを持ち、日常生活の中でも自然に英会話を楽しんだりする様子が見られた。</p>
(5) とうきょうすくわくプログラム・自然「電子黒板を使って」	A	<p>園では毎年畑でじゃがいも、きゅうり、トマト、大根、ブロッコリー等を育て、年長組が種まきや水やりを行って成長を観察している。園内では年中組が田植えをし、お米が出来上がっていく様子を観察している。それらが、育っていく様子を共有するために写真を撮り、それを電子黒板に映し出し、植物の色や形、育っていく様子を全学年で学びの機会をもち、身近な野菜などの育ちなどの調べ学習を行った。</p>

4. <学校関係者評価>

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	昨年に引き続き、食育、縦割り保育、特別支援教育、科学あそび体験は、更に質が上がっていると感じる。今年度は、英会話を更に充実させ、毎日朝の会で取り入れ、英語に親しみを持てるような環境づくりが出来たことは大いに評価に値する。簡単ではあるが子どもたちの中で、自然に英語で挨拶等のやり取りが「言葉遊び」のように行われていることも、子どもたちが意欲的に楽しんでいることが読みとれる。それらのことも含め、保護者からの全体的な教育に対する評価も高く、多くの体験が出来たことが子どもたちの中に蓄積され、それが生活や学習の中で生かされていることが成長のあかしと言える。

学校関係者評価委員会構成

外部有識者(1名)・学校評議員(1名)・地域住民(1名)・父母の会役員(1名以上)・園長・職員(1名以上)
 〈学校評価委員会最小構成人数 6人 含委任状〉

◎「3. 4. 」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
① 安全対策	アレルギーへの対応 食物アレルギー、皮膚アレルギーなど、職員一人ひとりが知識を増やし、子どもに対して、的確な対応が出来るようにする。
② こどもの体幹を鍛える	体の動きの柔軟性や体幹が弱いために、姿勢が悪かったり自然な動きが出来かたたりする子どもが増えている。職員自身が研修を積み、自らが体験しながら、子どもたちと一緒に体をほぐしながら遊び、柔軟性と体幹を鍛えていく。
③ 音とリズム	今まで取り組んできている楽器遊びを、更に質の高いものにしていくために、専門家より直接指導を受け、声の出し方、楽器での音の出し方、リズム等を体で感じ取り、楽器で表現していくことを学ぶ。